SUNSHINE

第54号　2011年　4月号
有限会社　太陽開発
鹿児島市荒田2丁目43-19　TEL099-255-3623
E-Mail　master91@taiyou1991. com

太陽開発　検索　クリック!!

賃貸マンション(オーナー様)をご紹介します！

マンションオーナー　酒瀬川様

今回ご紹介させて頂くのは高麗町にある今年2月上旬より入居開始、1Kの新築『プランドール8』のオーナー酒瀬川様です!!
現在既に満室☆こちら以外にも、下荒田、永吉、紫原にもマンションをお持ちでいらっしゃいます。
下荒田と高麗町のマンションには『プランドール』という名前をつけられ、フランス語で【成功する】という意味。マンションにお住まいになられた入居者様が、色々な面で、成功するようにと名づけられたそうです。今回新築で建てられた、「プランドール8」の設備としましては、オートロック、TVモニターフォンはもちろんのこと、なんと!!!"ミストサウナ"がついているお部屋があります☆しかも、インターネット無料ととにかく充実した設備が多数！！
酒瀬川様は、マンションを建てるにあたって、「とにかく女性目線で、入居者様がどうすれば喜んでくれるか」を考えて設備を取り入れた」とのことでした。その背景には、奥様や大学生の娘さんの意見もあるようです。充実した設備の1つに、『電動室内物干し』です。内容としましては、火山灰や雨の日で洗濯物が外に干せない日に、スイッチを入れると居室の天井から、電動で物干し竿が降りてくるのです!!この設備は、酒瀬川様が直々で、インターネットで調べ、取り入れることを決めたそうです。

マンションのオーナー様として、今回の取材でもたくさんのお話をさせて頂きました。その中で、「思うようにならないのが人生。なるようになるのが人生。そんなに深刻に考える必要はないのだ」と。今現在マンション経営を、このようにやってこれたのも、"失敗した数＞成功した数"なのだと語っておられました。
成功するためにも、とにかく勉強しないとだめっぱ！酒瀬川さん

酒瀬川様は、平日は谷山で整体師としても活躍されており、不動産についてもっと知識を得る為に、とてもたくさんの本を読んでお仕事の合間をぬって、日々勉強されているそうです。写真のように、本が

ｻﾝｼｬｲﾝを発行するにあたり、今回 東日本大震災の被災者の皆様には心よりお見舞を申し上げます。
新年度で弊社も21周年を迎えます。これも、ご縁があって仕事をさせて頂いた方々のお陰であると非常に感謝しております。今後、会社を運営、発展させていく上で必要な項目を再確認する意味で３つ挙げました。
①お客様のお役に立ち、喜んで頂くことによって社会に貢献すること。
②社員を育てること。
③会社を継続、成長させていくこと。
社員を育て、成長させることは非常にやりがいがあります。一人一人育った家庭環境も学歴も性格、考え方もみんな違います。そんな中で、いくら知識や技術を教えても、本人の仕事に対する心構えや考え方が間違っていたら育ちません。新入社員に対して「給与は誰からもらいますか」と質問すると、だいたい「会社からもらう」と答えます。本当は「お客様」よりもらっています。
「人間は何の為に働くのか」「なぜ働かないといけないのか」等を常に考え、私を含め、社員全員で「仕事に対する価値観を共有しなければならない」と思っています。
非常に偉そうできれいごとを言いますが、最低限、上記の項目を意識して会社を運営していかないと人は動かないし、うまくいかないと言うことを、何度も痛感しました。
以前ある本で読んだ俳句をご紹介します。
　　『浜までは　海女も蓑着る　時雨かな』
意味は、海女は海に入るのが仕事だから蓑を着ようが着まいがどっちみち濡れてしまう、しかし、海女は海に入るまでは蓑を着て雨に濡れまいとする、という意味です。

騎射場探訪

イムさんの韓国料理

今回ご紹介させて頂きますお店は、騎射場のどんぐり横丁近くにあります、その名のとおり韓国料理の"イムさんの韓国料理"さんです。オーナーシェフの林采勲(イム　チェ　フン)さんが5年前に日本に来日し、天文館で料理の腕を磨いた後、某ホテルにて接客のマナーを学び「家族みんなが食べられる、やさしい味を韓国料理で提供したい」という思いでオープンしたアットホームな雰囲気のお店です。アルバイトの韓国の学生も一緒にお店を盛り上げてがんばっていました。BGMには韓国のイムさんのセレクトした歌手の曲をCDで流すこだわりぶり♪料理の方は写真にありますよう一番人気のちぢみは外はカリカリ中はふっくら　秘伝のたれにつけて食すとみなさん笑顔になると自信作です。
是非一度　家庭的な韓国料理を舌づつみあれ♪

〒890-0054
鹿児島市荒田2丁目51-15
電話　099-250-0701

イムさん

ちぢみ

お通しにもこだわりが

チゲ鍋

砂ずりのにんにく炒

チーズいり卵焼き

今月の一冊　スリー・カップス・オブ・ティー

No.53

1993年、ひとりのアメリカ人男性がK2登山に失敗し、パキスタンの小さな山村で助けられた。村人たちの手厚いもてなしに胸を打たれた彼は、恩返しをしようと再びこの地に戻り、「女子のための学校を作る」と約束する。だが、お金もツテもない。しかもそこは女性の権利が制限され、タリバンのような過激派が勢力を広げる保守的なイスラム社会。いかにして男はこの無謀な取り組みを成功に導いたのか。全米が熱狂した真実の冒険ス

Greg Mortenson ｸﾞﾚｯｸﾞ・ﾓｰﾃﾝｿﾝ

CAI(中央ｱｼﾞｱ協会)会長。元登山家で退役軍人でもある。毎年数ヶ月間、ﾊﾟｷｽﾀﾝとｱﾌｶﾞﾆｽﾀﾝで活動し、学校を建てている。

David Oliver Relin ﾃﾞｲｳﾞｨｯﾄﾞ・ｵﾘｳﾞｧｰ・ﾚｰﾘﾝ

地球を駆けめぐって活動しているｼﾞｬｰﾅﾘｽﾄ。その著作や編集活動により、」これまでに40以上の賞を受賞している。ｱｲｵﾜ大学創作科にて執筆と指導法を学び、『ﾊﾟﾚｰﾄﾞ』や『ｽｷｰｲﾝｸﾞ・マ

『全米で360万部突破！N.Y.ﾀｲﾑｽﾞ紙ﾍﾞｽﾄｾﾗｰ30週間１位、154週連続ﾗﾝｸｲﾝ。待望の感動ﾉﾝﾌｨｸｼｮﾝがついに日本上陸』
華々しい帯の文句に惹かれて手にしてみました。これはｶﾗｺﾙﾑ山脈にある、世界で一番登頂が困難とされるK2で遭難しかけたｸﾞﾚｯｸﾞ・ﾓｰﾃﾝｿﾝが、ﾎﾟｰﾀｰに救われ迷い込んだｺﾙﾌｪ村に学校を作ることを約束し、幾多の困難を乗り越え、実際にﾊﾟｷｽﾀﾝに60以上もの学校を作る過程を、ｼﾞｬｰﾅﾘｽﾄのﾃﾞｲｳﾞｨｯﾄﾞ・ｵﾘｳﾞｧｰ・ﾚｰﾘﾝが書いたものです。この手の作品、つまりﾉﾝﾌｨｸｼｮﾝにあまり馴染みが無く、また、中央ｱｼﾞｱ情勢や宗教の問題についても明るく無い私にとって、この作品の細部を理解することは困難で、途中読み辛く感じたりもしました。しかし、一度読み終えて、やっぱりｸﾞﾚｯｸﾞ氏のやった事は、すごい事だわ、と思い、よく分からない社会的背景を抜きにしてもう一度読み返してみると、今度はするすると物語が私の中に入って来て、とても面白かったです。本当は、その社会的背景こそ重要なんでしょうけど、それはまた、私がもう少し教養を身に付けてから再度、読んでみることとしましょう。今感じることは、ｸﾞﾚｯｸﾞ氏が、出会いを大事にし、信念を曲げなかったことの素晴らしさに、素直に感動しています。登場する人々が実に魅力的で、巻末にある写真と見比べながら読んでいました。地図や人物紹介もついて読みやすくなった『ここに学校をつくろ』という、ﾔﾝｸﾞﾘｰﾀﾞｰﾊﾞｰｼﾞｮﾝも出版されているのそうなので、そちらも見てみたいです。